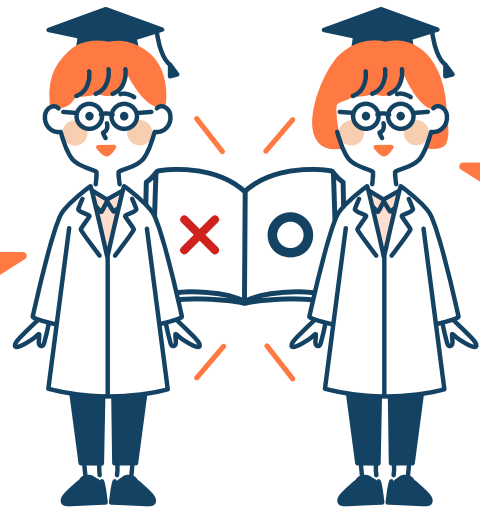


# Q&A

## Myths or Facts?

HIV感染症/エイズについて、正しい知識を持っていますか？

それとも事実？



あなたの思い込み？

職場内での接触でHIVが他の人に感染することがある？

HIVは、HIVを含む血液や体液が他の人の粘膜や血管に達する傷口に直接接触する状況で感染が成立します。職場での会話や握手、トイレや食器の共有で感染することはありません。



OK

OK

OK

OK

日常生活では感染しません

HIV陽性者は定年まで働けない？

抗HIV薬を適切に服用すれば、HIVを保有していない人と変わらず、健康に長く働き続けることが可能です。

治療していればコンドームなしの性行為でHIVがうつることはない？

抗HIV薬によりウイルス量が検出限界未満に6ヶ月以上維持されている場合、コンドームなしでの性行為でも相手にHIVを感染させることはありません。これは「U=U」(Undetectable = Untransmittable: 検出できない = 感染しない)として、国際的に認知されている概念です。そのため、職場での接触でHIVがうつる可能性もないと言えます。

U=U

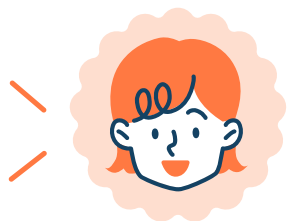
HIV感染症の治療や薬の副作用で仕事を辞めなければならない？

現在の抗HIV薬は、1日1~2回の服用で治療が可能で、副作用もほとんどありません。そのため、治療を続けながら今まで通り仕事を続けることができます。ただし、継続的な服薬と医師の指示に従った管理は不可欠です。



HIVの検査はどこで受けられる？

HIVの検査は、全国の保健所や自治体の特設検査施設で無料・匿名で受けられます。また、自分の住んでいる地域以外の保健所でも検査が可能です。なお、検査目的の献血は絶対に控えてください。



# CHECK LIST

正しい知識を知りましょう



HIV感染症/エイズについて、  
あなたはどれくらい正しい知識を持っていますか？

HIV感染症は「死の病」ではない。  
適切な治療を受けることでコントロール可能な慢性疾患です。多くのHIV陽性者が健康を維持しながら職場で活躍しています。

HIVは特定の状況でのみ感染が成立する。  
HIVを含む血液や体液が他の人の粘膜や血管に達する傷口に直接接触する状況で感染が成立します。職場での会話や握手、トイレや食器の共有で感染することはありません。

HIV治療は負担が少なく、治療と仕事の両立が可能である。  
1日1錠の服薬で治療できることも少なくなき、現在の抗HIV薬は副作用がほとんどありません。治療を続けながら今まで通り仕事を続けることができます。

服薬の継続が治療の効果を左右する。  
抗HIV薬は中途半端な服薬では効果が十分に得られません。治療効果を維持するために、継続して服薬することが大切です。

「U=U」の概念を理解している。  
「Undetectable = Untransmittable (検出できない=感染しない)」は、HIVウイルス量が検出限界未満に6ヶ月以上維持されている場合、他の人にHIVを感染させることはないという科学的根拠に基づく考え方です。

HIV検査は無料かつ匿名で受けられる。  
全国の保健所や自治体の特設検査施設で、無料かつ匿名で検査が可能です。検査は感染の可能性があった日から3ヶ月以上経過してから受けることが推奨されています。

HIV陽性者は支援制度を利用できる。  
HIV陽性者は、免疫機能障害として身体障害者手帳を申請でき、医療費助成や所得税の控除などの支援を受けることが可能です。医療費助成によって、医療費の自己負担は月額0~2万円に軽減されます。

HIV陽性者への差別は法律で禁止されている。  
不当な差別や解雇、雇用機会の制限は、「障害者差別解消法」や「労働基準法」によって禁じられています。職場では平等な対応が求められます。

従業員の健康情報は厳重に守られる。  
職場の規定、その他関連法令により、プライバシーにかかわる情報を本人の許可なく他者に伝えないことが極めて重要です。

HIV陽性者だからといって、特別な扱いは不要です。  
HIV陽性者を特別視するのではなく、職場の仲間として尊重し、誰もが安心して働ける環境を整えることが大切です。

## MEMO

